

## 第十七期登山学校

### 第八回講座

「雪山入門」講座

第十七期受講生

中川昌行記

### 【机上講習】

今年の正月には多くの山岳遭難事故が発生し、講習はしっかり聞かなければという気持ちで参加した。講座では、軽部先生から雪山での装備とその使い方、アイゼンを使った歩き方、悪天候時の対処法、雪崩の原理と対処法、低温下での危険などを実体験などを交えながらお話しいただいた。

特に登山学校に入校するきっかけとなった歩き方では、夏山での歩き方との違いを理解することができた。

装備では、翌日の自分の装備（夏山装備に毛が生えた程度）と比べながら聞いていると少し不安になってきた。

講習終了後、目出帽だけは購入しようかと店を覗くがおいてなかったため、そのまま翌日へ。

午後の後半では、高橋先生から雪崩にあった時の捜索に使うビーコンの使い方を教わった。

実際に雪崩に合わないようにすることが大事では

あるが、その後の対処まで知識として持っておく必要があることを再認識した。

### 【実技講習】

前日に那須岳付近の予想天気をネットで確認したとことでは、山頂付近の気温-10、風速23メートル、曇り。

体感気温は30以下になるので、本来にこの装備で大丈夫か少し不安になった。不安な装備は、目出帽、スパッツ無し。手袋は数年前のスキー用。防寒着は、数年前の防寒コート。

東武東上線の柳瀬川から貸切バスで出発。天気は、快晴。スカイツリーがきれいに見えた。

バスの中では、雪山登山講習のDVDで復習。気象状況に不安を感じながらこんなにも穏やかならいいなと思った。

那須のインターに近づくにつれバスが左右に揺れているのを感じ、回りの木を見るとかなり強い風が吹いているのがわかった。

準備を行う「お菓子の城」駐車場では、強風で雪が舞

っていた。

防寒着の下には、セーターを着ることにした。ズボンには、合羽を着こみスパッツの代わりに足首を合羽とズボンのゴムでしっかりと締めた。

靴下は、一枚のままと二枚重ねを悩んだ末、一枚のみとした。

再びバスに乗り込み、大丸温泉へ向かう。車内は緊張した雰囲気の流れていた。

押し固められた雪の駐車場に到着し、転ばないように下車。風で雪が舞っている。気温は5。

すぐにアイゼン（私は六本爪の軽アイゼン）をつけ、班ごとに登山を開始した。

準備運動は強風のため行わず、ゆっくり歩くことで代用となり、ゆっくりと雪の中を登っていった。

途中、道路を横切るところで耐風姿勢の練習をした。ザックを揺すって強風に耐えられるか確認。最初は耐えられ前につんのめった。

足の開き方とピッケルへの体重のかけ方が不足しているのかと感じたが、高橋先生から「8点」と言われ何とかなるかと少し安心。

ロープウエーの建物で小休止をとった。

ゆっくり歩いているのに体からは、汗が噴き出してきていたのでセーターを脱いだ。

峠の茶屋跡駐車場では、雪がなく、アスファルトの上は一面の氷がはっていた。

アイゼンをつけているおかげで、滑ることもなく進むことができた。

しかし、遮るものがないので、フードはしても風と巻き上がった雪がもろに顔にあたった。

ゆっくりと登っていくと鳥居が現れたが、雪が積もっていて潜れず脇を通った。

このあたりから時々足が雪に突き刺さって倒れそうになり、雪が深いことを実感した。

また、雪が深いところは、風があまり強くなく舞い上

がった雪だけが落ちてきていた。

樹林帯がなくなったところに出た途端、強風に見舞われた。そのためか、雪がな

く岩が見えている。耐風姿勢の重要性を認識できた。

駒崎先生から一方向から風を受けないように注意が飛ぶ。むぎ出しの肌が凍傷になっ

てしまわないための予防策とのこと。目出帽の必要性を感じる

が、短時間ならなくても何とかなるのかなとも感じた。運営委員で協議の結果、登山はここまでとなり、記念

写真を撮って同ルートで下山を開始する。気温は-12。

下山途中、左手にぼんやりと那須岳が見えた。峠の茶屋跡駐車場手前

にある東屋でアイゼンを外して、東屋で行動食をとった。おにぎりは、凍って食べられないと聞いていたので、保温袋に入れて携行。無事凍ることもなく食すること

ができた。

保温袋に入れたペットボトルの水もまだ氷ることなく飲んでいた。ザックのポケットのペットボトルは、少し凍りだした様子でした。

体を温めるために持つてきたカップ味噌汁は、寒さで箸が使えないような気がして手を出さず。

後から考えれば、箸の使い方を考えれば飲めたのかも思う。また、寒い中での食事はフオークも持つていた方が便利なのかなとも感じた。

この休憩で、行動が止まったせいで左手の薬指と左足の中指が痛くなってくる。

前日の机上講習で、教えられた「動かして体を温める」を思いだし、手と足の指を開いたり閉じたりしてみた。

しかし、感覚に変化はない。そうこうしている間に出発準備となり、手の指は少し回復してきた。

ほんの少しの運動で回復することが実感できた。運営委員の方が掘った雪洞

を横目で見つつ、東屋から少し上に作られた「雪の弱層テスト」のところに移動した。

受講生が雪の柱を抱きかかえるように引つ張り、簡単にずれてしまう層があることを確認した。

弱層面は、刀で切ったように斜めにまつすぐ切れていた。

「力はそんなに強くひかなかった」とのこと、樹林帯でなければ十分雪崩の可能性があるとのこと。

この後、二班は新雪の中を歩きだし峠の茶屋跡駐車場の石垣の上に到着した。

何をするのかと思つたらほぼ垂直の石垣を下りるといふ。どうやって???

高橋先生が、雪と一緒に滑り下りていった。近くに雪の亀裂が走り、雪が崩れるのかと思つたがそうはならなかった。

同じように滑り降りてみた。意外とスピードはつかずゆつくりと雪を崩しながら落ちていった。最初は、恐怖を感じたが面白い。他の受

講生は、雪をピッケルで掻き込みながら登っていた。凍った駐車場は、雪のあるところを選んで歩行した。

アイゼンなしでも雪のあるところは滑らないことを確認した。

さらに下つて、柳の枝でできた和カンジキをトライした。

新雪の上を歩いても雪に足があまり込んでいかず、歩きやすく新雪の上を選んで歩いてみた。

このあたりから、足首に雪が入っていることに気がついた。石垣を滑り降りた時に合羽がたくしあがつて入つたようだ。

スッパツツの必要性を確認でき、特に雪と遊ぶときは絶対必要だ。

また、靴には水がしみてきていないこともわかり、靴の防水性にも驚いた。

この後も数回、雪の上を滑つて下山、潜ることがありその都度雪が侵入したが、滑って降りるのは楽しく、童心に戻つたようでした。

このあたりから雲が切れた

し、日が当たるようになった。

下り坂の向こうに駐車場が見え、無事に戻つてこれたと一安心。

講師や運営委員のみなさんから、天候が悪くて山頂まで行けなくても、安全な雪山の楽しみ方を教わつたような実技講習でした。

最後の講習まで長い間本当にありがとうございました。

第十七期受講生

松本 孝子記

【机上講習】

軽部先生作成の『雪山入門講座』のテキストを受け取り登山学校、最後の机上授業が始まりました。登山初心者の中には雪山は怖い！雪山に遭難しか頭に浮かびません・・・寒い時にもっと寒い雪山に行くなんて何でかしら？理解に苦しみます・・・

テキストには冬山へのいざないとあるのに内容は冬山の困難、寒さ！！ほらやつぱり怖い事だらけ・・・冬山の気象、冬山の危険、悪天候、雪崩、強風、凍傷、低体温症・・・ワツ、ますます嫌！

怖い話して、十分な準備、体力、知識、技術がどれだけ大切かと理解した上で、冬山装備から本格的な授業です、装備にはじっくり時間をかけ実物を見ながらの解説、雪山では装備も納得！歩く基本、ピッケル、ビーコンの使い方、気象、雪崩の解説と多岐にわたる授業、最後の『雪山で遊ぶ』で危険は装備と知識で回避し冬山を楽しみましょうとまだまだ教えたい事がありキリがありませんとおっしゃっていました。

明日の実技講習怖くて

嫌！と思つていた私ですが、お借りしたピッケルを持って雪山に行つてみようかなと思わせてくれる授業でした。

テキストの締めくくりは、冬になったら冬眠する熊さんでなく、雪山を駆け回るカモシカになりました。明日は皆でカモシカになります！！

【実技講習】

学生時代、一番苦手で嫌いな科目は体育・・・好きな科目は美術と家庭科、好きな山は鎌倉アルプス、レベルが低すぎ！こんな私になぜここに！！

ご迷惑をおかけします、すみません先生方！！

最後の実技は七時に北浦和に集合、バスで那須岳に時間通り出発。

途中、お菓子の城でアイゼン意外の装備をつけます、靴、アウターウェア上下、スッパツツなど、風が強く木々が揺れています、先生方が「今日は風が強いなあー上はもっと強いからなあ」と話しています、 waarbij どうしよう迷惑をかけないよう頑張らなきゃ」緊張しました。

午前十時二十二分大丸温泉駐車場着ここからは班ごとの行動です、私は1班、私以外は若者達おばさん頑張ります！！アイゼンをつ

けるのも皆さんスムーズ、昨夜主人に笑われながら練習してよかつたあゝ迷惑かけずに済みました。

伊藤先生を先頭に私、若者達、小松先生と続きます。昨日のテキストは写真も多く初心者でも分かりやすかつた、早速ピッケルを片手にアイゼンワークです、いい天気空が青い、雪が真っ白、気持ちいい！！

物足りなかつたのか、1班の若者1人がわざと新雪に入りラッセルワーク、元気だなあと感じていたら先生から『それじゃ1班先頭でラッセルワーク』と声がかかり若者が先頭で嬉しそうに新雪をスイスイ！鎌倉アルプスとはレベルが違う！このレベルの差を上手くまとめてくださる先生方の気の配り方は絶妙です心から感謝しつつ進みます。

登るほど風が強くなり、気持ちいいどころではありません、途中ピッケルの持ち方や強風時の姿勢、歩き方の基本などを学びながら、テキストを思い出し地吹雪で飛ばされそうになりながら先生の話を真剣に聞きます！

峰の茶屋入口に午後〇時三十分着、強風でここまでと決まり写真を撮つて下山です。十二時五十六分お昼ご飯、

行動食の注意で飲み物はぬるめのお湯がサッパリしていて寒い時には暖まる、おにぎりは冷たいのでパンがいいですよと教えて頂き助かりました！お度での食事は寒かった！小松先生が振る舞ってくれたお餅入りのお汁粉、お度で食べるお汁粉はものすごく美味しかったです！

お汁粉の後は、雪崩の勉強と弱層テスト、本当にパカッと容易に断面がずれました、雪山でのビーコンの大切さも理解できました。

横穴式雪洞を先生方が掘ってくださり雪洞に入ったりと盛り沢山の授業が続きます。

下山する途中、ラッセルで坂を登る練習をしましたが、足が雪にズブズブ入り足下が崩れるばかりでとうとう登れませんでした：：若者達はシツカリ登れてましたあ。

十四時二十七分 1班  
大丸温泉駐車場に無事に到着！

ホッとして帰りのバスでは爆睡、回ってきたマイクに驚き、寝ぼけていてキチンと挨拶できませんでした、すみません・・・。

1班松本、雪山は寒かったです、装備、事前の準備、地図、コンパス、行動食、雪崩、遭難、沢山の事を学び感謝です！

1班で一緒に愛さん、優しくフォローしてくれてありがとう。

先生方、レベルの違う私達を分け隔てなくご指導くださり心から感謝しております、最後の授業も楽しかったです、有り難うございました。